

# 農業と科学

1982  
10

G H I S S O - A S A H I F E R T I L I Z E R C O L T D

## 八丈島の観葉植物と コーティング肥料

東京都中央農業改良  
普及所八丈島支所

荒川 昭

### 1. 八丈島の観葉植物栽培の現況

八丈島は東京から南へ300kmの海上に浮かぶ富士火山系の島で、四国の室戸岬とほぼ等しい位置にある。島の東南部の三原山系は有機物含量が多く、表土も深い。北西部の八丈富士山系は未風化の噴出火山礫土のため、三原山系の土壌を客土して耕地化されている。

年平均気温が18℃で、1月、2月の平均気温も10℃と温暖で、年降水量は3,260mmと極めて多い。日照時間はやや少なく、海洋性の特性をよく示している。

八丈島の農業の中心は花き園芸で、中でも、この気象条件を生かした観葉植物の生産が群をぬいている。

表 1. 施設別、作目別栽培面積

施設	作物	ロベルニケンチャ	ドラセナ	チャマエドラ	らん	ゴム	レザー	野菜	その他	計
ファイロンハウス		—	73	2	63	9	2	14	26	189
ビニールハウス		49	325	74	78	37	14	82	129	789
パイプハウス		1	105	45	29	21	27	179	124	530
ラスハウス		450	45	7	—	7	—	7	78	595
計		501	548	128	170	74	43	282	357	2,104

八丈島の施設の特徴は鉢置場(ラスハウス)の多いことである。これは露地で育成したフェニックス・ロベルニケンチャヤシを7月に鉢上げし、ヨシズやミノ竹で遮光した鉢置場において、3~5月の出荷期まで管理するものである。

ドラセナ、チャマエドラ、ゴム類などの観葉鉢物はビニールハウスで育成され、主に、大鉢生産が中心となっている。近年、栽培面積が伸びているものに、シダの1種で、レザーファンの切葉栽培がある。シダの生育と八丈島の温暖多湿な気象条件とが適合して、ほぼ周年切葉生産が可能となっている。

### 2. 観葉植物の施肥方法

観葉植物の大鉢生産では、仕上げの鉢上げから出荷ま

で、1年近く鉢置場またはビニールハウスで養成するため、鉢用土以上に、肥料に対する生産者の関心は強い。

慣行の施肥では、鉢上げ時(10号鉢)に、油粕や緩効性肥料を用土に50~100g混入し、その後、出荷まで3~4回追肥する。追肥には、油粕か有機化成(5-5-5)を1回当たり30~50g施用する。かつては、高度化成を施用したこともあったが、勘に頼ることが多いため、施肥量がむらで、特に、プラスチック鉢に代ってからは濃度障害を受けることが多く、フェニックス・ロベルニーのように、極端に根を切って鉢上げするものは、チッソの溶出の早い肥料では、活着するまでに根を傷めてしまうケースが多かった。

そこで普及所では、観葉植物の生産安定と品質向上をめざして、栽培技術の改善、中でも、施肥体系の見直しを重点課題として取り組んできた。56年から、肥効の安定と施肥の省力化をねらって、各種観葉鉢物にコーティング肥料を導入した展示ほを設置し、その効果を検討してきたので、その1部を紹介する。

### 3. チャマエドラ・シェフリジーの場合

このチャマエドラは単幹で細く、環節が竹のように明瞭に入るため、タケヤシとも呼ばれ、近年、急速に生産が増加している。この仲間には、チャマエドラ・エレガンス(テーブルヤシ)があるが、これは小鉢中鉢が中心なのに対し、シェフリジーは大鉢がほとんどである。

#### 展示ほの概要

(1)品 種 チャマエドラ・シェフリジー

## 本 号 の 内 容

- ✧ 八丈島の観葉植物と  
コーティング肥料……………(1頁)  
東京都中央農業改良普及所八丈支所 荒川 昭
- ✧ 短期間電照による  
短冷苺の収量増加について……………(3頁)  
鳥取県東伯農業改良普及所 中村 明
- ✧ 果菜類の栽培とロングの  
地力的施肥管理の効果……………(5頁)  
愛媛県経済連肥料農業部肥料課 清水和繁
- ✧ 商・品・紹・介  
あさひエースの特徴……………(7頁)  
(くみあい磷硝安加里S555)  
チッソ旭肥料(株)技術部 宝満通泰

表 2. チャマエドラ・シェフリジーの作型

鉢	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目			○	○									
3.5号鉢2年目			は種				×	×					
6号鉢3年目							鉢上げ	×	×				
(地植)							◎	◎					
尺鉢4年目									×	×			
5年目													

すいたため、有機質肥料や緩効性肥料が使われてきた。ただ、レザーファンでは灌水が不可欠で、土壤水分によってチッソの溶出量が変化しやすい肥料では、施肥時期によって濃度障害の危険があった。

そこで、施肥の省力化だけでなく、適正な施肥量をつかむため、56年秋より、コーティング肥料を導入してきた。現在のところ、ロング140タイプをアール当り20kg(チッソ:2.6kg)施用しても、濃度障害は見られず、生育も旺盛で、好成績を上げている。

(2)栽培法 10号鉢(プラ鉢)に4本植、用土は三原山系の赤土 1鉢当たりの用土量、12kg

(3)施肥量および生育調査

表 3. 施設量と生育調査結果

項目	施 肥 期				生 育 調 査		
	10月17日		1月22日		4月30日		
	化成 10-10-10	ロング 100	ロング 180	化成 10-10-10	ロング 100	草丈 cm	葉色
慣行区	50	—	—	50	—	112.5	+
ロング100区	—	50	—	—	50	117.8	++
ロング180区	—	—	100	—	—	124.6	++

(4)結 果 慣行区との生育差はあまりなかったが、葉色については、慣行区との差は歴然であった。この展示ほとは別に、10号のポリ鉢に、2年生苗を4株ずつ鉢上げし、慣行区では、有機化成50gと緩効性肥料50gの2区、展示区では、ロング100と140タイプを各々50g、土壤と混和させた区を設けたが、この展示ほでも葉色については、施肥から1ヶ月後で、顕著な差が認められた。

これはシェフレラ・ホンコンに施用した場合でも同じで、コーティング肥料のタイプ別による差はなかった。これはコーティング肥料のチッソの溶出日数がタイプどおりであったのに対し、慣行区の油粕、緩効性肥料の肥効が予想外に短かったため、肥料切れを起こしたものと考えられる。シェフリジーの葉色から判断すると、この展示ほの慣行区では、ロング100区よりも1か月早く、12月中旬には2回目の施肥が必要と思われた。

各展示ほとも、生育速度については大きな差はなく、出荷までの期間がやや短縮される程度であった。このように、コーティング肥料は慣行肥料と同等以上の結果を示し、観葉植物生産において、省力、肥効の安定化につながる可能性が強くなったといえる。

#### 4. レザーファンの場合

レザーファンは、観葉植物と同様、チッソの肥効と切葉量との相関が高く、そのため、施肥回数は月に1~2回、年間では10回以上にも及び、チッソ成分で、10アール当り50kg以上の施用も珍しくない程である。しかし、シダの根は予想外に吸肥力が強く、濃度障害を起こしや

#### 5. 考 察

観葉鉢物では、施肥の省力化、肥料価を考慮して、できるだけタイプの長いものを選択したいが、肥効の長いタイプのものは、灌水量、施肥時期にもよるが、初期生育の遅れが気になる。できれば、180日タイプ、270日タイプには、50~70日程度の肥効の短いものを配合したコーティング肥料が必要ではないかと思う。

今のところ、量的には、初期生育を考えて、観葉鉢物ではコーティング180日タイプで、尺鉢当り100gが適量と考えられる。

今回、コーティング肥料を導入した観葉鉢物、切葉栽培では栄養過多による花芽分化の遅れの心配がないため、軟弱徒長しない範囲で、チッソの肥効をいかに良くするかが課題であった。

八丈では有機物資材が乏しいため、鉢用土は赤土単用で植付けることが多く、また、灌水量も多いため、単に、追肥回数を増やす方向で対応してきた。しかし、コーティング肥料の導入により、施肥の省力化、肥効の安定化が期待できるため、今後は、栽培環境、用土、灌水作目別のタイプの選択、施肥量をきめ細かく検討していきたい。



左. 慣行肥料 品種チャマエドラ 右. ロング シェフリジー